



JCHO

ジェイコー



地域医療の未来を創る
薬剤師に
なってみませんか。



こくふ たかとし

国府 孝敏

大阪病院薬剤部長

これから **JCHO** 薬剤師になるあなたへ
薬剤師からのメッセージ。

01 青山 哲 滋賀病院

02 北澤 文章 京都鞍馬口医療センター

03 供田 菜々花 大阪病院

04 木曾 真季子 大阪みなと中央病院

05 大井 隆広 星ヶ丘医療センター

06 勘田 大統 神戸中央病院

07 小川 裕貴 大和郡山病院

08 田中 歩 玉造病院



あおやま さとし

青山 哲

滋賀病院

京都薬科大学卒

病棟に欠かせない存在になる。

病棟薬剤業務を行っているとき、患者さんや医療従事者を含めたすべての人にとって自分が「相談役」であると感じます。

相談は自分と相手がいって成立するのは言うまでもありません。つまり、コミュニケーション能力がとても重要になります。患者さんを診て医師、看護師らと話し治療方針を決め、「処方提案」をする薬剤師こそ、病棟薬剤師だと思います。そのためには患者さん一人一人に丁寧に向き合い、患者さんの病気に薬を通して接し、些細な、でも重大な変化に気付くことができるスキルが必要になります。現在、私は患者さんや医師、看護師か

ら信頼してもらい、薬剤師として必要とされるように、薬を通じていろいろな話をしています。そのせいか、病棟に行くといつも質問から始まります。まずは、どんどん自分の存在を病棟の中で欠かせないものにしていきたいというのが今の目標です。

中小規模病院ならではのスタッフ同士の距離感に惹かれた

学生の頃から医師によるメディカルケア、看護師によるナーシングケア、そして薬剤師によるファーマシューテカルケアの3つのケアで治療を行うチーム医療に興味を持っていました。そのため、医師、看護師、薬剤師がお互いに話しやすい、相談しやすい雰囲気である職場で働きたいと思っていました。そんなとき、滋賀

病院で職員の募集があり、一度見学した際に病棟も案内してもらいました。中小規模の病院ならではの雰囲気、患者さんや医師、看護師その他多くのスタッフが気軽に話せる距離感であることが分かり、入職を決めました。

医師への処方提案が、より適切な薬物療法につながった

私は現在、ICT（感染制御チーム）に所属しています。ICT担当薬剤師として院内の抗生剤の使用状況の把握はもちろんのこと、他施設間での抗生剤使用状況の比較をしたりしています。また、医師から抗生剤について質問されることもあります。腎機能、肝機能の低下した患者さんへの抗生剤の投与量、どの抗生剤を使えばよいかなどの相談です。ほとんどが電話での対応であり、その場で即答できる知識が必要となるため、勉強の毎日を送っています。以前、医師から相談を受けたとき、提案した抗生剤がそのま

ま処方になり、患者さんが快方に向かったときは非常に嬉しく思うと同時に、大きな達成感を得ました。これからさらに知識を深めて、そのような経験を増やしていきたいです。今後は感染制御認定薬剤師の資格取得を目指しながら、より視野を広げて、チーム医療に貢献したいと思っています。

自分の将来の薬剤師像を描き、それを実現できる職場を選んでください

薬剤師として働き始めると、日常業務の中で多くの疑問に出会います。それらを一つ一つ地道に調べて解決していくことで、新たな発見をし、成長することができます。一つの疑問を大切に、真摯に向き合う姿勢を学生時代のうちに身につけておくと、薬剤師になってから時間を作ることが上手くなります。そして、就職活動においては自分の将来の薬剤師像をしっかり持ち、それを達成できる職場を見つけることが大事だと思います。



よく働き、よく遊ぶ。
がモットーです。

青山 哲（あおやま さとし）

平成13年薬学部卒業。大学院修了後3つの病院での勤務を経て、平成22年に社会保険滋賀病院（現JCHO滋賀病院）に入職。休日の趣味はドライブ。行き先近くのラーメン店を念入りに調べて食べ歩く。1日3食、すべてラーメンを食べることも。



滋賀病院

- ▶ 滋賀県大津市
- ▶ 325床
- ▶ 薬剤師11名



「薬学の知識はまだ十分ではなく、勉強の毎日です。分からないことを調べて明らかにしていくことがとても面白いと感じます。」

目の前の、そして未来の患者さんを救うために、資格更新の努力と臨床研究を続けていきたい。

私 ががん領域に大きな関心を抱くようになったのは、三十歳を過ぎた頃に、ある患者さんと出会ったことがきっかけでした。まだ二十歳代の未来ある女性が、急性骨髄性白血病と診断され、すぐに造血幹細胞移植を行ったのですが、様々な合併症が生じてしまい、

目の前の、そして未来の患者さんを救うために。

壮絶な状況が続きました。彼女が苦しむ姿を前に有効な対策を提供できず、かける言葉もなく、ただただ無力感に苛まれました。この経験を通じて、「専門的な知識を持って、患者さんの前に立ちたい。一緒に戦える薬剤師になりたい」との思いを強くし、臨床能力を高めるべく、より自己研鑽に励むようになったのです。



現在まで学会発表50回、学術論文は18編を数える。うち7編は英文雑誌への掲載であり、世界に通じる臨床成果を挙げている。

WORK
STYLE 02



きたざわ ふみあき

北澤 文章

京都薬科大学大学院修了

京都鞍馬口医療センター

その頃に、ちょうどがん専門薬剤師の認定制度がスタートし、挑戦することを決めました。研修では、モチベーションが高い他の研修生とともに学術的な研究に取り組み、特に文献リサーチのスキルが格段に進歩したと思っています。問題が発生した際に、あらゆる角度から検討し、科学的に考える力を養うことができ、これが今の私につながる基盤となっています。

その後、がん指導薬剤師のほか、最近になって外来がん治療認定薬剤師の資格を取得しました。これらの資格を活かして、化学療法を行う患者さんを対



京都鞍馬口医療センター

- ▶ 京都府京都市
- ▶ 300床
- ▶ 薬剤師18名



「薬剤師も処方を行える時代となり、環境は大きく変化しています。日本の薬剤師もアメリカの薬剤師に近づいてきたと思います。」

象にした薬剤師外来を立ち上げたほか、プロトコルに基づく薬物治療管理（薬剤師による処方オーダー）を実践しています。また、化学療法委員会や研修会などを通じて院内全体に専門知識を広める活動や、臨床研究にも継続的に取り組んできました。現在までに学会発表を積み重ね、それらの発表がきっかけで、ある大学病院の医師から、私が発表した抗がん薬の多剤併用制吐療法について「自院でも使用したいので詳しく教えてほしい」と手紙をいただいたこともあります。

資格を取得し、継続して更新することは、目の前の患者さんを救う

高齢化に伴い、がん患者さんは腎機能や肝機能が低下している場合が多く、抗がん薬の薬物動態を考慮した最適な投与設計が求められるケースも増えています。また、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬が開発されるなど、化学療法のマネジメントは複雑かつ多様化していま



臨床薬剤師として、質の高いエビデンスを創出する。

北澤 文章（きたざわ ふみあき）

平成7年薬学研究科修士課程修了。日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師、日本医療薬学会がん専門薬剤師、日本医療薬学会がん指導薬剤師。臨床のみでなく研究にも力を入れており、現場の問題を科学的に解決するために学会発表、論文発表を行い、その成果を現場に還元している。

す。そうした中で、副作用を最少化するための提案をしたり、処方オーダーを行ったりするためには、薬剤師により高度な知識とスキルが求められます。そのため、資格取得及びその更新の努力を続けることは、目の前の患者さんを救うことになる、今強く感じています。

薬剤師が臨床研究で成果を挙げることは、未来の患者さんを救う

医師は日常業務で目の前の患者さんを救い、臨床研究によって未来の患者さんを救おうとしています。薬剤師も、薬学の立場からこれと同じ努力を続けるものだと考えています。そうした研鑽が医師からの信頼を獲得することにもつながります。目の前の患者さんに真摯に向き合いながら、未来の患者さんを救うために、今後も臨床薬剤師に加え、医師、大学との連携を通じて、より質の高いエビデンスを創出していけるよう、努力を続けていきたいと思っています。

「様々な科を経験して、担当科の医師、看護師が普段使用しない薬剤の処方提案を行うことのできる薬剤師になりたい」

今

まで病棟業務において整形外科、泌尿器科を担当してきました。現在は乳腺外科、産婦人科を担当し、新しい症例に戸惑いながらも一つ一つ勉強し、服薬指導や副作用モニタリングを行っています。当院の薬剤部はおよそ1～2年で病棟担当の入替えがあり、様々な疾患を勉強することができます。多くの科を経験している薬剤師だからこそできる、担当科の医師、看護師がそれまで使っていなかった薬剤の処方提案を行いたいと考えています。例えば、同じ抗がん剤を使用しているにもかかわらず、科によって副作用対策に用いられる薬剤が異なることがあります。処方提案などを通じて、こんな薬もあったんだと思ってもらえるような薬剤師になりたいです。

様々な診療科を経験した
薬剤師だからこそできる
処方提案を、行いたい。

病院見学で感じた「温かさ」

私は、高い専門性を持った各職種が仕事に専念しつつも、チームワークの築かれている職場で働きたいと考えていましたが、見学した多くの病院は慌しく、業務に追われている印象でした。しかし大阪病院は、薬剤師だけではなく、受付の方や廊下ですれ違う看護師の方なども笑顔で挨拶してくれて、スタッフが皆、忙しくも温かい現場で働いていると感じました。

ともだ ななか
供田 菜々花

大阪薬科大学卒

大阪病院

患者さんからの「ありがとう」が、 大きなやりがいになっている

私は、抗がん剤調製室で抗がん剤の混注やレジメン製作を担当しています。医師や看護師からの照会に対応し、薬剤師として、患者さんにとって一番安全で効果的な薬物療法を提案しています。病棟薬剤業務では患者さんの顔を直接見て話ができるので、体調の変化や表情を読み取り、薬に対する不安を取り除く言葉をかけ、安心して治療を行えるようにサポートしています。がん治療の薬には副作用を伴うものが多いですが、それぞれの患者さんに合った副作用対策の薬を提案して「あのお薬を飲んで楽になったわ。ありがとう」と言ってもらえた時には、とてもやりがいを感じます。

学生時代の多様な経験が、 これからの将来につながっていく

いろいろな経験をしてください！私が伝えたいことはこれだけです。



海外で、日本では味わえない体験をするのが好き。

供田 菜々花（ともだ ななか）

平成27年薬学部卒業。同年4月にJCHO大阪病院に入職。趣味は旅行で、三連休や夏休みを利用して国内、海外へ遊びに行く。ハワイや韓国、ディズニーランドなどがお気に入り。また、料理も得意で、休日にはたびたび腕を振っている。



大阪病院

- ▶ 大阪府大阪市
- ▶ 565床
- ▶ 薬剤師30名

大学での勉強はもちろん、アルバイトや部活動、サークル、友人との遊びや飲み会まで、あらゆる経験がすべて、これからの将来につながっていくと思います。私は大学の実務実習を通じて病院薬剤師になりたいと思うようになりましたが、それまではMRや美容、食品の研究など、いろいろなことに興味があり、どの道に進むべきか迷っていました。そこで、病態の研究室に入り様々な研究をしたり、大学5年生のときに3つの製薬会社のインターンシップに参加し、MRの仕事の面白さや、職場の雰囲気などを自分の目で見て確かめました。

そうする中で、自分がこれからしていきたいことは何なのか、考えることができました。分野を問わず幅広い経験をする事で、多くの興味を持つことができると思います。その中から自分に合った本当に進みたい道を見つけ出し、後悔のないようにしてください。私は病院薬剤師になって、「この仕事を選んで本当によかった」と、強く実感しています。



「他科の薬を適切に提案するために知識の幅を広げ、より多くの症例を扱えるよう、日々精進していきたいと思っています。」

裏切らない。
患者さんの信頼を、

病棟で薬剤業務を行っているとき、私の顔を覚えてくれた患者さんから「薬剤師さん、薬飲んでるよ」などと声をかけてもらえるのが嬉しいです。

薬

薬剤師の病棟での活動が期待される時代になりました。大阪みなと中央病院でも、平成28年10月から薬剤師の病棟常駐体制を開始しています。病棟で患者さんに接する時間も多くなり、私の顔を覚えてくれた患者さんから「薬剤師さん、薬飲んでるよ」などと声をかけてもらえるのが嬉しいです。患者さんからの信頼を得られたと思う瞬間です。この信頼を裏切らないよう、それぞれの患者さんにとって適正な薬物治療を提案できる薬剤師になることが目標です。薬剤の適正使用のために医師や看護師などの他職種と意見を交わし、チームが最良の治療を行う手助けをしたいと思います。そのためには、多くの薬剤や疾患、治療の知識を身につける必要があります。積極的に勉強会に参加したり、疑問に思ったことは医師や先輩薬剤師に質問して、分からないことをそのままにしないようにしています。理想の薬剤師像に近づけるよう、日々精進しています。

WORK
STYLE

04

きそ まきこ
木曾 真季子

大阪みなと中央病院

同志社女子大学卒



多くの職種の協働関係の中で、 薬剤師の専門性を発揮したかった

私は、医師や看護師、理学療法士、栄養士など、多くの職種と連携して薬剤師の専門性を活かして働きたいという思いがあったので、病院薬剤師の道に進むことを決めました。大規模病院、中小規模病院、また急性期、慢性期などいろいろな機能を持った病院がある中で、自分のやりたい薬剤師の業務内容を考えた結果、幅広く業務経験を積むことができる中小規模病院を目指すことにしました。現在の大阪みなと中央病院を志望した理由は、中小規模病院でありながら多数の診療科を扱っているため、多種多様な薬剤の知識を得られると思ったからです。

また、大阪みなと中央病院はちょうど薬剤師の病棟業務を開始したところだったので、いろいろなことに挑戦する機会に恵まれており、他職種や患者さんとの関わりを深く持ちながら働くことができると考えて入職を決めました。



USJの年間パスは、
通年所持しています。

木曾 真季子 (きそ まきこ)

平成21年薬学部卒業。民間病院での勤務を経て、平成28年にJCHO大阪みなと中央病院に入職。USJの大ファン。病院への通勤電車の窓からUSJの一角を望むことができ、仕事帰りにふらっと寄り道してUSJを満喫する日もしばしば。

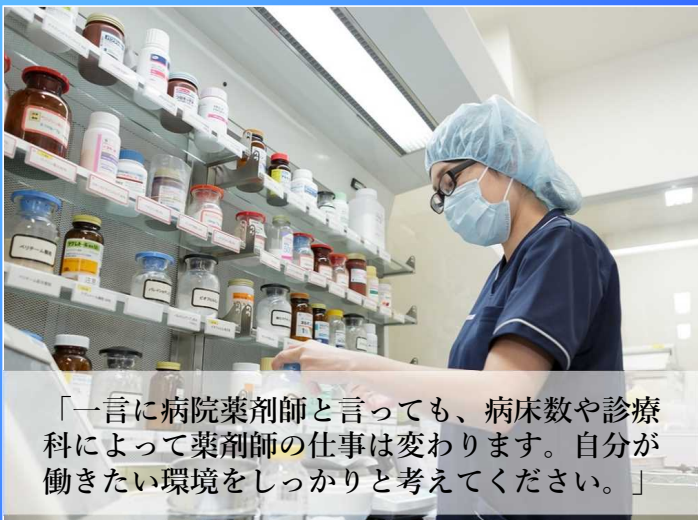


大阪みなと中央病院

- ▶ 大阪府大阪市
- ▶ 275床
- ▶ 薬剤師11名

コミュニケーション能力を培い、 スタッフと患者さんのパイプ役となる

病院薬剤師は、患者さんに身近に寄り添って働けるのが魅力のひとつです。病院では医師をはじめ、多くのスタッフが力を合わせます。チームでは互いの専門性を活かしつつ、対等な立場で意見を交換します。薬剤師は、薬に関して他職種と患者さんの間に立ってパイプ役になり、ベストの薬物療法を目指します。そこで何よりも必要になるのはコミュニケーション能力です。薬剤師として患者さんに信頼されることが重要なのです。学生時代には多くの人と出会う機会があると思います。それらの出会いを通じて得たコミュニケーション能力は、薬剤師として他職種や患者さんに関わるときに大いに役に立つと思います。病棟業務をしていて、患者さんに信頼してもらっていると感じたり、医師や看護師から薬について気軽に相談されるときに、この仕事の大きな価値を感じます。



「一言に病院薬剤師と言っても、病床数や診療科によって薬剤師の仕事は変わります。自分が働きたい環境をしっかりと考えてください。」

WORK
STYLE 05



薬学的な知識だけでなく、何にでも興味を持って取り組んで、ジェネラリスト以上のジェネラリストになりたい

私 が目指す理想の薬剤師像は、「必要とされる以上に力を発揮できる薬剤師」です。必要とされる以上に力を発揮するには、広く深い薬学的知識を持たなければならないと考えています。たとえば、抗がん剤治療を行うために外科病棟に入院してきた患者さんに糖尿病やリウマチの既往がある場合、血糖降下薬や抗リウマチ薬に関する深い知識が必要ですし、外科手術のために入院してきた患者さんであれば、手術後の栄養管理の知識も必要となります。専門薬剤師、認定薬剤師の資格は自分自身をPRする上では必要ですが、実際の業務の中では、資格がなくても幅広い知識が必要であることを日々感じています。資格を取得するために身につけた知識が活きるのは、最終的には患者さんへの薬物治療においてです。そして、知識

必要とされる以上に力を
発揮できる薬剤師になる。



おい たかひろ
大井 隆広

北陸大学卒

星ヶ丘医療センター

を活かすためには、患者さん自身に病気と向き合ってもらうための信頼関係の構築も重要です。患者さん一人一人に合ったコミュニケーションをとるためには、心理学的な知識も必要かもしれませんし、薬物治療に関わる経済学的な知識も必要かもしれません。よくばりですが、あらゆる場面で「必要とされる以上に力を発揮する」ために、薬学的な知識だけでなく、他分野のことでも、何にでも興味を持って取り組み、ジェネラリスト以上のジェネラリストになりたいと思っています。



星ヶ丘医療センター

- ▶ 大阪府枚方市
- ▶ 580床
- ▶ 薬剤師28名



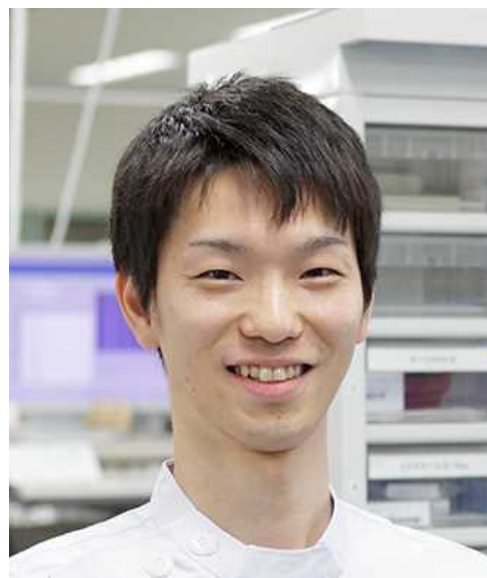
「就職先を決めるに当たっては、実際に職場見学に行くことが大切です。施設の雰囲気や働いている人の表情を、肌で感じてください。」

学生に対しても一切手を抜かない 先輩薬剤師が印象的だった

他の職種の考えや業務に触れ、チームで連携して治療に貢献できることから病院薬剤師という道を選びました。現在の病院へは、病院実習で訪れました。先輩方は薬学生に対しても一切手を抜かず、非常に丁寧に指導してくれたことがとても印象的でした。また、患者さんのために調剤、病棟業務などを真剣に行う薬剤師の先生方の姿をみて、ここで一緒に働き、自分も成長したいと思いました。

安全な薬物治療のために、薬剤師はあらゆる場面で活躍する

現在、私は消化器科病棟を担当しており、がん患者さんに対して抗がん剤の説明、副作用モニタリングを行っています。抗がん剤治療には不安を感じる患者さんが多くいます。治療による効果を最大限に発揮し副作用を最小限に抑えることが、



大井 隆広 (おおい たかひろ)

自宅の近くの大きな公園で、子供と遊んで癒されています。

平成21年薬学部卒業。同年4月に現病院に入職。休日は子供と一緒に遊ぶ、優しいイクメンパパ。また、月に2回、病院のテニスサークルの活動に参加している。テニス初心者なのでなかなか上達していないが、他職種のスタッフとも交流しながら、少しずつスキルを磨いている。

薬剤師の使命だと考えています。医師と協議しながら、治療効果を落とさずに副作用対策をすることにやりがいを感じています。最近、外来通院で抗がん剤治療を行う患者さんも多く、医師の診察前に薬剤師が外来患者さんに副作用や服用状況の確認を行い、医師に情報提供や処方提案をする業務も行っています。

学生時代に学んだことに自信を持って 就職活動を頑張ってください

どの業界に就職しても、最初は学生と社会人との違いに戸惑うでしょう。学生の頃は先生が教えてくれますが、社会人は自分から積極的に学んでいく姿勢が不可欠です。また、就職活動中は不安を感じることも多いかもしれませんが、今は自分の将来像が見えなくても大丈夫です。これからの経験を通じて、自分のやりたいこと、やるべきことが見えてきます。今まで学んだことに自信を持って、就職活動に取り組んでください。

早い段階で現場を知ったことで
処方意図を汲み取る力がつき、
成長スピードが加速した

1 年目から病棟担当薬剤師として、当初は消化器内科を担当し、服薬指導を行ってきました。消化器内科では膵炎や胆石症、腸炎などの他、がん患者さんも入院されます。がんの治療で抗がん剤を投与しますが、がんの進行が早く、治療効果が乏しい方もいます。疼痛や不安を訴えられ、どのように接すべきなのか、どのような薬を提案すれば患者さんの苦痛を和らげ

患者さんの不安や疑問を解消し、 治療意欲の向上につなげる。

ることができるのか、悩んだ時期もありました。今もその悩みがなくなったわけではありませんが、現在はPCTメンバーとして活動しながら、知識を深めて緩和薬物療法認定薬剤師の資格取得を目指しています。



チーム医療では、他職種のスタッフと接することで新たな知識やコミュニケーション能力を磨くことができ、自己の成長につながると感じている。

WORK
STYLE 06



かんだ ひろのり

勘田 大統

摂南大学卒

神戸中央病院

患者さんに「わかりやすく」伝える
ための努力を惜しまない

薬剤師としての経験が浅いながらも、病棟では患者さんに服薬指導を行います。先輩からマンツーマンの指導を受け、また先輩の服薬指導の様子を見るなどして、日々勉強を重ねています。今では、例えば服薬指導書を「後で読んでおく」という患者さんには、服薬のポイントを一枚の紙にまとめたものを作成して渡すなど、“わかりやすく伝える”ことを重視して、自分なりの工夫をした指導を実践しています。



勘田 大統 (かんだ ひろのり)

平成27年薬学部卒業。同年4月に現病院に入職。車が大好きで、休日には職場の同僚を愛車に乗せてドライブや旅行に出かけている。行ったことのない場所を見て、土地の特産品を食べて地元の人たちと話をすることがとても楽しいのだそう。

チームとして多角的に患者さんを支え、 薬剤師としての役割も全うする

PCTでは、薬剤師として処方提案、他職種への医薬品情報の提供、副作用モニタリングなどを行うほか、チームとして患者家族のケアまで、様々な角度から患者さんのサポートをしています。私は現在、血液内科・腎臓内科を担当しています。血液内科では抗がん剤を使用しますし、腎臓内科では透析も行うので、使用薬剤や投与量の検討を行うことが非常に重要となります。服薬指導においても事務的に行うのではなく、患者さんの薬についての不安や疑問を一つずつ丁寧に解消し、治療意欲の向上に貢献していきたいと考えています。

病床数と診療科の多い総合病院の中 でも、最も雰囲気合うと感じた

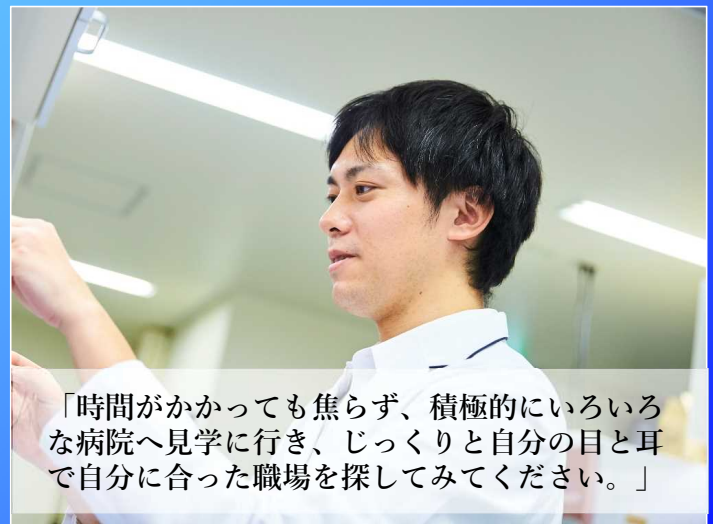
薬剤師である以上、服薬指導や発言 の一つ一つに責任を持つ

社会人と学生とは、「責任を持つ」という点において大きな違いがあると思います。薬は誤った飲み方や使用をすれば、身体に影響を及ぼし、ときには命に関わることもあります。薬剤師という資格で仕事をする以上、患者さんへの服薬指導や他職種のスタッフへのあらゆる発言の一つ一つに責任を持って、チーム医療を支えていかなければなりません。



神戸中央病院

- ▶ 兵庫県神戸市
- ▶ 424床
- ▶ 薬剤師20名



「時間がかかっても焦らず、積極的にいろいろな病院へ見学に行き、じっくりと自分の目と耳で自分に合った職場を探してみてください。」

様々な症例を学びたかったのが、病床数と診療科の多い総合病院を希望していました。当院は、見学した際に薬局内の調剤設備が整っていることや、スタッフの雰囲気の良さが印象的でした。また、各委員会やPCT、ICTなどのチーム活動で職能を活かすことができ、院内の研修会など、自己研鑽の環境が整っていたため、当院への就職を決めました。

他職種から頼られる 薬剤師を目指して。

患者さんをはじめ、医師や看護師などの医療従事者も人間であるので、信頼関係というものは少しずつ、時間をかけて築いていくものだと思います。

理 想の薬剤師像は、患者さんから信頼されるのはもちろんのこと、医師、看護師などの他職種からも頼られるような薬剤師です。そのためには、まず幅広い分野に精通したジェネラリストになろうと思っています。そこから、認定・専門薬剤師の資格を持ったスペシャリストを目指していきたいです。理想の薬剤師になるには、それ相応の経験が必要であり、短期間で夢に近づけるものではありません。患者さんや医療従事者との信頼関係は少しずつ、時間をかけて築いていくものだと思います。自分自身のスキルを磨くことも信頼を得ることにつながるので、勉強会などに積極的に参加して、他病院の薬剤師や調剤薬局の薬剤師との情報交換を行い、交流を深めることも重要です。まだ新人なので、多くの人から多くのことを吸収することが大切であると思っているので、じっくりと基礎から学ぶ姿勢を忘れないようにしています。



おがわ ゆうき
小川 裕貴

大和郡山病院

大阪大谷大学卒

WORK
STYLE 07

チーム医療の一員として 患者さんをサポートしたい

私が薬剤師という道を選んだのは、中学生の時に調剤薬局で白衣を着て勤務している薬剤師を見て憧れを抱いたのがきっかけです。そして薬学部に進学し、実務実習で病院と調剤薬局の両方を経験してみて、病院薬剤師になりたいという気持ちが沸き上がりました。病院薬剤師が地域に密着して患者さんの役に立っている姿を見て、自分もその一員になりたいと思いました。医師、看護師、理学療法士や栄養士など、多くの職種と連携しながらチームの一員として医療に参加し、患者さんをサポートしたいと感じたことも、病院薬剤師を志望した理由でした。

新人の自分でも、薬剤師として 患者さんの役に立っていることを実感

入職後、初めて医療の現場で実際に調剤を行い、その薬を服用する患者さんに接



流行のエアケイも、
もちろんできます。

小川 裕貴（おがわ ゆうき）

平成27年薬学部卒業。同年4月にJCHO大和郡山病院に入職。中高6年間の部活動で鍛えたテニスのほか、ボルダリング、スノーボードなどを楽しむアウトドア派。また、最近は車に興味を持っており、ウインドウショッピングを楽しみながら、将来的には外車に乗ろうと考えている。



大和郡山病院

- ▶ 奈良県大和郡山市
- ▶ 225床
- ▶ 薬剤師7名



「学生のうちに楽しむところは楽しみ、勉強するところは勉強する。メリハリをつけることも、学生生活ではとても大切だと思います。」

して、その効果あるいは副作用を目の当たりにし、職業として薬を扱っている自分に驚きを隠せませんでした。処方監査、調剤、監査、服薬指導など、薬剤師が行う投薬のプロセスを経験することにより、医療全体の流れの中で自分が機能していることを実感しました。また、他職種との交流も多く、周りのスタッフから学ぶことがたくさんあります。様々な資格を持ったスタッフが各人の専門分野を出し合い、協働して医療を支えている現場に自分も参加していることに緊張感を漲らせて業務に励んでいます。

当院では、薬剤師が大腸内視鏡検査全般の指導に深く関与しています。その指導は薬に関すること以外にも、食事や検査前の生活全般にまで及びます。この業務を通じて、患者さんのバックグラウンドに応じた適切な対処方法を学んでいます。患者さんから「ありがとう」と言葉を投げかけられた時には、薬剤師として本当に患者さんの役に立っているんだと感じ、もっと頑張ろうと思います。

WORK
STYLE 08

たなか あゆみ

田中 歩

玉造病院

武庫川女子大学卒

何にでも即答できる薬剤師に。

患者さんにとって最良の薬物療法を提案することを迅速かつ的確に行えるように、多くの知識を身につけたいです。

仕 事中は医師や看護師から、今の私では即答できないような問い合わせを多く受けます。患者さんにとって最良の薬物療法を提案することをスピーディーかつ的確に行えるように、多くの知識を身につけたいです。知識の幅を広げるために、病院内で開催される様々な勉強会に参加しています。当院では薬剤部内の勉強会の他に、月に4～5回、医師との合同勉強会が開かれます。意見交換の場では医師の考えも聞くことができ、非常に勉

強になります。先日の勉強会では、同一成分の薬剤であっても規格が異なると全く違う効能・効果を発揮し、用法用量にも違いがあることを学びました。このような勉強会に積極的に参加し、今後より多くの専門的な知識を得て経験を積んでいきたいと思っています。

**「全員で力を合わせて業務を行う」
ことに魅力を感じた**

大学5年次の実務実習を通じて、患者さんに近いところで薬の効果を実感でき、チーム医療によって患者さんの個性に応じた効果的な治療を進めていく病院薬剤師になりたいと思いました。また私の故郷の島根県は薬学部がなく、薬剤師も不足しており、さらに全国でも高齢化率の高い

地域でもあります。関西圏の大学に進学していましたが就職は故郷に戻り、地域医療に貢献したいと考えていました。その後就職活動を進める中で、広範囲の業務に携わり、いろいろなことを経験したいという気持ちになり、大規模よりも中小規模の病院を中心に就職先を探しました。玉造病院は薬剤師数が6名と少数ですが、調剤監査、服薬指導などの様々な業務に対し「全員が力を合わせて全部の業務を行う」体制であることを病院見学の際にとっても魅力的に感じ、この病院に就職したいと思いました。

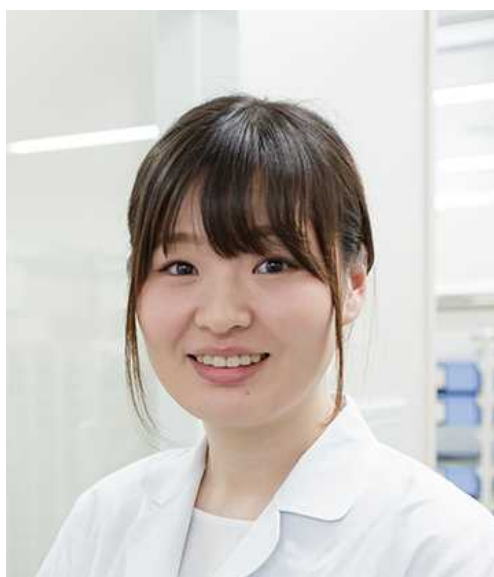
様々な業務に幅広く関わるぶん、覚えなければならない知識も多い

現在は、忙しい日々の中でやりがいを感じながら勤務しています。朝一番に注射の調剤監査からはじまり、外来もほとんど院内調剤のため外来の患者さんの待ち時間を極力少なくするように業務を進めながら医師への疑義照会、入院持参薬の

鑑別、入院調剤監査、麻薬管理、病棟業務、服薬指導などをこなします。様々な業務に幅広く関わるということは、それだけ覚えなければならないことも多いです。薬効や用法用量だけではなく副作用や飲合せ、同効薬の効力比など自分が知り得た情報を患者さんや他の医療スタッフに伝え、それが治療に活かされた時は確かな手応えを感じます。

病院の雰囲気や業務内容をよく観察し、そこで働く自分を想像してみてください

就職活動に当たっては、自分の希望する病院の見学会などには積極的に参加して、その病院の雰囲気や業務内容などを観察し、そこで働く自分を想像してみることが大事だと思います。また、夜勤や当直の頻度、福利厚生、育児に対してのサポート制度など、就職してから自分がよりよい環境の中で安心して働くことのできる職場であるかどうかを確認することも大切であると思います。



近所の映画館は、私の専用シアターです。

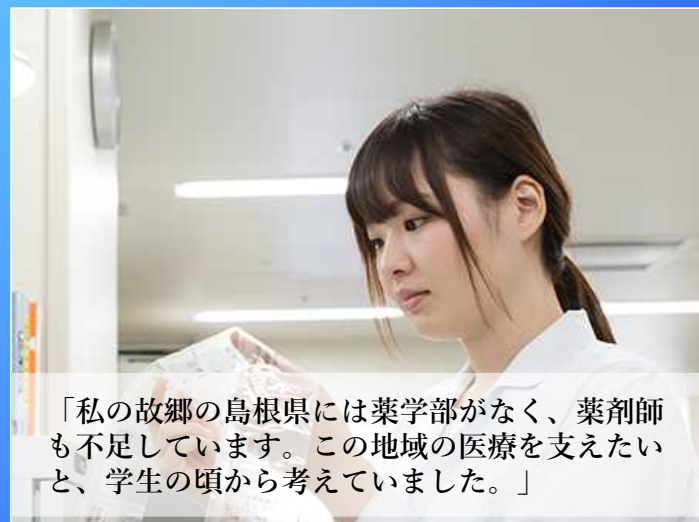
田中 歩 (たなか あゆみ)

平成26年薬学部卒業。同年4月にJCHO玉造病院に入職。社会人になってから、月に数回映画館に足を運ぶようになった。最近はアクション映画にハマっている。字幕なしで映画を鑑賞するため、英語の勉強を始める予定。



玉造病院

- ▶ 島根県松江市
- ▶ 301床
- ▶ 薬剤師6名



「私の故郷の島根県には薬学部がなく、薬剤師も不足しています。この地域の医療を支えたいと、学生の頃から考えていました。」



独立行政法人地域医療機能推進機構
(JCHO: ジェイコー)

近畿地区事務所

病院見学等のお問い合わせは
☎ 06-6448-8680

あなたに、
支えてほしい。
あなたの大切な
地域の医療を。



JCHO Japan Community
ジェイコー Health care Organization

独立行政法人地域医療機能推進機構